全国ほんもの体験フォーラムin高知

受け地や旅行会社が参加

体験型観光に積極的に取り組み、成果を上げている地域の事例や課題を議論する第12回「全国ほんもの体験フォーラムin高知」が3月25～27日の3日間、黒潮町の「土佐西南大規模公園体育館」をメイン会場に開かれた。受け入れ地域は、県の西南部にある「幡多」、東部の「安芸」、北部の「嶺北」、中西部の「高幡」の各広域エリア。最後の清流と言われる「四万十川」で行うカヌー体験や、世界認定の「室戸世界ジオパーク」ガイドをはじめ、民泊、農業、焼き鰹のタタキ作り、ラフティング、ドラゴンカヌーなどの体験メニューを数多く取りそろえている。

主催は、全国ほんもの体験フォーラムin高知実行委員会。共催が全国ほんもの体験ネットワーク。25日の全体フォーラムには、県内外から受け地関係者や旅行会社ら約900人が参加。期間中は、全体フォーラムに加え、26日に課題別研究分科会を、26、27日に体験ツアーを催した。

全体フォーラムは、受け入れ農家らによる事例発表、全国ほんもの体験ネットワークの藤澤安良会長（体験教育企画社長）による基調提案、公開パネルディスカッションなどを開催。冒頭、実行委員会名誉会長の尾﨑正直高知県知事、実行委員長の中平正宏四万十市長があいさつした。

公開パネルディスカッション

「体験型観光は日本創成」

25日の公開パネルディスカッションのテーマは、「体験型観光は日本創成の切り札となる」。民泊の教育効果などについても意見が交わされた。

北きりしま田舎物語推進協議会の冨満哲夫会長は、「以前、学業に意義を見出せずにいた女子生徒が、軽い気持ちで2泊3日の農家民泊に参加した。その体験がきっかけとなり農業の勉強をしたいという気になった。今では大学の農学部で一生懸命学んでいる」と報告。コーディネーターの藤澤会長は、「感動をするとか」と話している。

公開パネルディスカッションは「体験型観光は日本創成の切り札となる」がテーマ

がある」（渡辺謙克・田野畑村政策推進課主任主査）、「高齢のインストラクターが、受け入れを通じて若い世代と触れ合うことで元気になっている」（山下與範・まつうら党交流公社副理事長）、「2016年度の体験型修学旅行の受け入れは、約60校・1万800人を1億3千万円を見込んでいる」（大巳和記・広島商業会議所地域振興チームリーダー）などと報告された。しかし、体験型観光の推進により今では、滞在型の観光地に脱却できた。十分な経済波及効果ある市内ホテルの前後泊など、他の波及効果を除いた体験料収入は、総額約6会場合計で、約700人が参加した。

26日開催の課題別研究分科会は大月町、黒潮町、土佐清水市、須崎市、本山町、安芸市を会場に、「防災学習」「食育」「民泊」など、それぞれ六つのテーマ別に開い

「職業体験と生活体験は農山村の活性化」をテーマとする分科会も

業体験と生活体験は農山村の活性化」。民泊の教育効果などについても意見が交わされた。

北きりしま田舎物語推進協議会の冨満哲夫会長は、「以前、学業に意義を見出せずにいた女子生徒が、軽い気持ちで2泊3日の農家民泊に参加した。その体験がきっかけとなり農業の勉強をしたいという気になった。今では大学の農学部で一生懸命学んでいる」と報告。コーディネーターの藤澤会長は、「感動をするとか」と話している。

人は変わる。感動するには体験することが重要だ」などと結んだ。

フォーラムの受け入れにあたった高知県地域観光課の石元浩之進主幹は、「今回のフォーラムには県外から約500人の参加があった。教育旅行受け入れの先進地の参加者との交流もでき、数多くの参考になる意見も聞けた。これから先、教育旅行受け入れを推進するにあたり有意義な3日間になったのではないか」と話している。

次回のフォーラムは来年10月28日に福島県・南会津で開催

体験ネットワークが総会

来年のフォーラムは南会津

体験型観光の振興に取り組んでいる全国組織「全国ほんもの体験ネットワーク」（藤澤安良会長）の第19回総会が3月25日、高知県黒潮町の土佐西南大規模公園にあるふるさと総合センターで開かれた。全国から約90人が参加した。

総会では、今夏をめどに制作中のインターネットホームページと「体験プログラム進行マニュアル・学習の手引き」の概要説明に加え、福島県・南会津での開催が決定している第13回・全国ほんもの体験フォーラムの概要が発表された。

フォーラムは、公開パネルディスカッションや課題別研究分科会、体験ツアーなどを通じて体験型の修学旅行を考えるイベント。2016年度は、10月28～30日の3日間の開催。28日に全体フォーラム、29日に課題別研究分科会。29、30日に体験ツアーが開かれる。メイン会場は、南会津町の「御蔵入交流館文化ホール」。約1千人の来場を見込む。課題別研究分科会は、南会津町、檜枝岐村、只見町、下郷町の4会場での開催となる。

総会の様子

主催は「全国ほんもの体験フォーラムin福島・南会津実行委員会」と「自治総合センター」。共催が、全国ほんもの体験ネットワーク。受け入れの窓口は主に、南会津町のみなみやま観光が担う。「フォーラム開催をきっかけに、東日本大震災の原発事故による風評被害の払拭を促進するとともに、激減した教育旅行の回復を図りたい」とみなみやま観光。

当日は、次回開催の全国ほんもの体験ネットワーク総会の概要も報告された。会場は、徳島県牟岐町を予定。開催日程は、来年3月3～5日の3日間で調整している。受け入れは、南阿波よくばり体験推進協議会が担う。

総会開催と併せて、人材育成講座なども予定されている。

国内修学旅行の実態とまとめ　高等学校②

日本修学旅行協会 発行「2015教育旅行年報」から

重点を置いた活動――

歴史や平和の学習

12面から続く

【旅行内容】

1―重点を置いた活動

重点を置いた活動の件数・構成比（表2）では、前回と比較して上位6位内の順位は同じである。「歴史的な観光地の見学」「平和学習」「自然体験」「スポーツ体験」が重点を置いた活動の主たるものと言えるが、回答は多岐にわたっており、各学校がさまざまな考えのもとで重点を置いた活動を実施していることが伺われる。

かつては主要な活動内容であった「博物館の見学」や「美術館などの見学」は過去（2008年度実施分）では2位であったが、この5年間で大きく順位が下がり、それに対して「マリンスポーツ」や「職場訪問・職場体験」「環境学習」などが徐々に上がってきており、スポーツやキャリア教育環境への関心が増してきていると思われる。

また、高等学校の国内修学旅行では沖縄、北海道が多いので自然体験、マリンスポーツ、食品作り体験、ものづくり体験、伝統文化・伝統芸能体験などの地域の特性を生かした体験学習に重点が置かれてきている。その他、いなか暮らし体験や農業体験は公立校に多く、学校見学（大学・専門学校など）を重点に置く学校もある。

さらに、重点を置いた活動を大きく「歴史学習」関連や「平和学習」関連などに分類した分類別件数比率（グラフ2）を見ると、「歴史学習（史跡、町並み、寺社、産業遺産、博物館の見学など）」が653件（31・8％）、「平和学習」が382件（18・6％）、「スポーツ体験（スキー、スケート、ラフティング、カヌーなど）」が321件（15・6％）で、この3分類内容で全体の70％近くを占めている。

2―旅行先について

カウント方法は、滞在時間に関係なく、例えば滞在が半日であっても、2日であっても、初日と3日目であっても行った旅行先を「1」としている。

都道府県別旅行先（表3）を見ると、トップは前回に引き続き沖縄県で、2位東京都、3位京都府、そして大阪府、千葉県の順である。沖縄県は平和学習やマリンスポーツ体験など、東京都は都心部班別行動、京都府は寺社などの歴史学習、大阪府、千葉県はテーマパークの人気が大きな要因であろうか。自然体験素材が豊富な北海道は前々回5位、前回6位、今回は7位と順位を下げている。8位以下は前回と大きな順位の変動はない。

表にはないが、東北各県をみると、福島県が21位（8件）で、岩手県、宮城県、山形県が30位（各3件）となっている。上記の東北各県へは九州から8件、関東（東京、神奈川）から3件、近畿（大阪）から5件、中国（岡山）から1件、合計17件である。福島県は前回4件で今回倍増したが、まだまだ震災、風評の影響も残っているものと思われる。

表2　重点を置いた活動の回答構成比と実施校比率

（単位：件数、％）

順位 今回	前回	前々回	活動内容	国立	公立	私立	全体	構成比	対実施校比率
1	1	1	遺跡、史跡、文化財、寺社などの見学	2	236	171	409	19.9	49.6
2	2	2	平和学習	1	220	161	382	18.6	46.3
3	3	3	伝統的町並みや建造物群保存地区の見学	1	87	55	143	7.0	17.3
4	4	4	スキー・スケート（スノーボード・スノーシューなど含む）	0	99	41	140	6.8	17.0
5	5	5	自然や野外活動体験（無人島体験、洞窟体験など含む）	0	85	51	136	6.6	16.5
6	6	—	マリンスポーツ　（ダイビング・シュノーケリングなどを含む）	0	89	38	127	6.2	15.4
7	10	11	職場訪問、職場体験	0	55	16	71	3.5	8.6
8	13	7	環境学習体験	1	31	28	60	2.9	7.3
9	7	10	博物館などの見学	0	41	18	59	2.9	7.2
10	12	8	伝統工芸などものづくり体験	0	30	28	58	2.8	7.0
11	8	9	伝統文化、伝統芸能や祭り体験（香道、舞妓、着付け、三味線、ペーロン、エイサーなど含む）	0	32	25	57	2.8	6.9
12	8	6	その他のスポーツ（ラフティング、カヌー、熱気球、トレッキング、乗馬など含む）	0	29	25	54	2.6	6.5
13	13	13	学校見学（大学、専門学校など）	0	24	22	46	2.2	5.6
14	18	15	宗教体験（座禅、法話、写経など）	0	25	18	43	2.1	5.2
15	11	12	産業や産業遺産の見学	0	29	13	42	2.0	5.1
16	15	14	ミュージカル、演劇などの鑑賞	0	24	14	38	1.9	4.6
17	16	16	いなか暮らし体験	0	25	9	34	1.7	4.1
18	18	17	農業	0	22	6	28	1.4	3.4
19	17	18	料理・食品加工体験	0	17	4	21	1.0	2.5
20	20	21	美術館などの見学	0	5	2	7	0.3	0.8
20	23	18	歌舞伎、文楽、能楽などの鑑賞	0	3	4	7	0.3	0.8
22	21	18	国際交流　（外国人、留学生との交流）	0	2	4	6	0.3	0.7
23	22	22	漁業　（釣り含む）	0	2	3	5	0.2	0.6
24	24	25	販売・商業体験	0	2	1	3	0.1	0.4
25	25	22	酪農	0	0	2	2	0.1	0.2
25	—	25	コンサート、音楽の鑑賞	0	2	0	2	0.1	0.2
—	25	24	ボランティア体験　（具体的内容）	0	0	0	0	0.0	0.0
—	—	27	介護福祉体験	0	0	0	0	0.0	0.0
—	—	28	林業	0	0	0	0	0.0	0.0
			その他	0	49	24	74	3.6	9.0
			計	5	1,265	783	2,054	100.0	

※複数回答可　（ただし三つまで）

※その他には「班別自主研修」や「テーマパーク研修」「民泊体験」「震災学習」などが含まれる

グラフ2　重点を置いた活動の分類別件数比率

（数字は件数、比率　合計件数：2,053件）

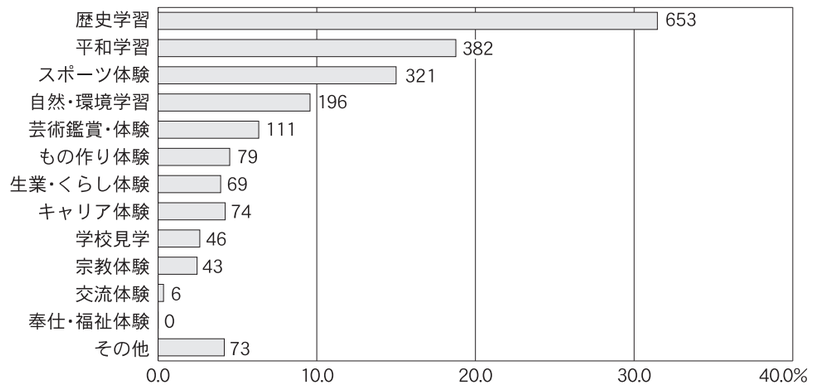

表3　都道府県別旅行先ベスト20

（単位：件数、％）

順位 2014年度	2013年度	2012年度	旅行先	件数	構成比
1位	1位	1位	沖縄	260	14.8
2位	2位	3位	東京	181	10.3
3位	3位	2位	京都	174	9.9
4位	4位	4位	大阪	163	9.3
5位	5位	6位	千葉	148	8.4
6位	7位	7位	奈良	124	7.0
7位	6位	5位	北海道	108	6.1
8位	8位	8位	長崎	79	4.5
9位	9位	9位	福岡	71	4.0
10位	11位	12位	長野	62	3.5
11位	12位	11位	兵庫	60	3.4
12位	10位	10位	広島	56	3.2
13位	13位	14位	神奈川	44	2.5
14位	14位	13位	熊本	42	2.4
15位	15位	15位	佐賀	29	1.6
16位	16位	16位	鹿児島	21	1.2
17位	18位	20位	滋賀	16	0.9
18位	17位	17位	新潟	15	0.9
19位	20位	18位	山口	11	0.6
20位	18位	19位	岡山	10	0.6

※総件数は1,759件

※滞在時間に関係なく訪問した都道府県をカウントした。（旅行中、複数回滞在してもカウントは1とした）